

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	3	課題区分	C	令和6年4月11日	
横断的な課題	諏訪湖創生ビジョンの推進						
地域重点政策	諏訪湖創生ビジョンの推進					諏訪地域振興局	
実施機関	諏訪農業農村支援センター			担当課	所属	農業振興係	
事業名	浮き漁礁設置に係る生物調査				電話	0266-57-2913(内線2364)	
					E-mail	suwa-nogyo@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	諏訪湖における魚介類の生息しやすい環境修復に向けた生息環境修復事業の基盤を整備する。					
	現状と課題	諏訪湖では、魚介類の生息に重要な役割を果たす水辺移行帯やエゴの機能が失われており、諏訪湖における漁獲量は、1960年以前に比べ、種類数、量ともに減少している。そこで、魚介類の生息しやすい環境の修復を目的に試行的に、湖岸に植物を植えた「いかだ状」の漁礁を湖面に浮かせ、湖底にはエビなどが住処にできるような石の隙間の造成を行い、諏訪湖魚介類生息環境修復事業を実施する。この事業評価を行う上で、施工前と施工後の魚介類の生息状況を把握する必要があるため、施工予定地区における水生生物の採捕を行う。					
	内容 (変更後の内容)	<p>諏訪湖魚介類生息環境修復事業実施個所における施工前と施工後の魚介類の生息状況を調査する。</p> <p>また、事業完了後、広く県民への周知を目的に報道機関を対象にした現地見学会を開催するとともに、県民理解を高めるため漁礁の説明看板を湖岸に設置する。</p> <p>(1)場所：諏訪市豊田地先(六斗川橋付近)</p> <p>(2)協力予定者：諏訪湖漁業協同組合、水産試験場諏訪支場</p> <p>(3)調査方法及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投網及びエビかご等による魚獲 契約日から生息環境修復事業着手前及び生息環境修復事業竣工後から令和6年3月31日まで(7月から1回/月:計9回) ・漁獲された生物はすべて種同定を行い、採捕尾数を記録する。 ・漁獲された魚介類は必要最小限の数を除き再放流する。ただし、外来魚はすべて回収する。 <p>(4)報道機関対象の現地見学会(船舶を利用し湖上で開催) 2月9日(金)</p>					
	事業期間	令和5年5月		～		令和6年3月	
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容		実績額	備考		
	生物調査	採捕作業委託		148,500	@16,500×9回		
	現地見学会	船舶の借り上げ		7,400			
	浮漁礁の看板設置	工事請負費		550,000			
	合計		705,900				
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	実施後の効果検証会議の開催			2回	2回	○ 達成	
	浮き漁礁設置場所における増加した生物の種類数			1種類以上	0種類(継続検証)	● 一部達成	
						○ 未達成	
事業実績・成果	<p>県民参加型予算により提案のあった浮漁礁(令和6年1月設置完了)の効果を確認するため、設置場所において設置前の令和5年7月から令和6年3月まで投網による魚類の生息数を調査した(月1回)。調査の結果、数種類の魚類の生息は確認できたものの、増加を確認することはできなかった。調査結果を基に関係機関(水産試験場、諏訪湖漁協)と効果検証会議を2回開催し、より効果的な手法について意見交換を実施した。協議の中で、投網を定期的に実施したことで魚類に警戒されてしまったため、時間をかけて魚類が浮漁礁の環境に慣れるよう調査実施の頻度を検討すべき、調査は継続するがある程度長めの期間で検証すべきといった意見が挙げられたことから、今後の対応を検討していく。加えて、本事業について県民への周知を目的とし、報道機関を対象にした現地見学会の開催及び漁礁設置場所に説明看板を設置した。結果、見学会開催後には新聞4社、テレビ4社による発信が行われ、諏訪圏内外に情報発信をすることができた。また、看板設置後には当センターに事業に対するご意見が寄せられるようになった(月2件程度)ことから、事業に対する周知が図られていると推察される。</p>						
今後の方向性	浮漁礁の効果を検証するため、引き続き魚介類の生息状況調査を実施する。						